

トルコ -- サッカーと政治 (特集 途上国・新興国のスポーツ)

著者	間 寧
権利	Copyrights 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	237
ページ	28-29
発行年	2015-06
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00003188

トルコ

サッカーと政治

問
寧

世界の他の多くの国と同様、トルコで最も人気のあるのはサッカーである。国民が熱狂するスポーツは政治と密接に結びついて

いる。たとえば政治家は公共事業完成の開所式でペナルティーキックを蹴るのが慣習になっていたが、エルドアン首相は自らが出馬した二〇一四年大統領選挙戦の最中の七月末に参加したエギジビションマッチで「ハットトリック」を決めて有権者にアピールした。試合は、トルコ代表チームや国内外の有力クラブチームの監督を長年務めてきたファティヒ・テリムの名を冠したサッカー場の開所式で行われた。エルドアンは国民的英雄であるテリムとの自らの近い関係、そしてサッカーおよびスポーツの重要性を強調して、サッカーファンと同義であるトルコ国民の心を捉えようとした。

●エルドアン大統領とサッカー

エルドアンのサッカー歴は有名である。エルドアンは一三歳ころからサッカーを始めたが、父親は時間を無駄にせず勉強すべきと考えるサッカーには反対していた。そのためエルドアンは両親に隠れてプレーした。スパイクを石炭倉庫に隠し、怪我の痛みも顔に出さずにこらえた。彼の實力は次第に地元のリリーグでも認められるようになり、自らがキャプテンとなったIETT（イスタンブール市営交通局）では一九七八年にイスタンブール・アマチュア一部リーグで優勝している。さらにトルコのクラブチームでガラタサライと双壁をなすフェネルバフチェからも移籍を求められたことも二回ある（参考文献①）。彼はその宗教心と卓越したプレーぶりから、イマーム・ベッケンバウアーとも呼ばれた。

エギジビションマッチでは、彼は走る速さこそ六〇歳という年齢にふさわしいようにみえたが、その技術は確かであることを証明した。相手方のゴールキーパーは、エルドアンのどのシュートに対してもほとんど反応しなかったものの、得点に繋がったエルドアンの三本のシュートはゴールの右下隅、右上隅、左下隅を正確に捉えた。特に二本目のシュートはキーパーが最も取りにくいもののシューターにとっても難易度の高い「九〇度」と呼ばれるものだった（参考文献②）。ちなみに筆者は試合の翌日、ホテル近くの公園の警備員やタクシートの運転手などに、エルドアンが素晴らしいプレーをしたと話しかけると、彼らは一様にあの程度のプレーは驚くに値しないという冷めた反応を示した。過去にセミプロでプレーしていたのだから当然というコメントも聞いた。

た。トルコ人のサッカー水準の高さを認識した。

●サッカーの政治的利用

トルコにおけるプロサッカーリーグの最上位リーグ（現在の呼称は「スーパードリグ」）には一八チームが所属するが、そのうち過去五八回のリーグ戦で優勝した経験があるチームは五つしかない。しかもフェネルバフチェ（一九回）、ガラタサライ（一九回）、ベシクタシュ（一三回）という三強が前記優勝の九割近くを占めている（参考文献③）。このようなバランスの欠如はイスタンブールを拠点とする三チームとそれ以外のチームの資金力の違いを如実に物語っている。しかし他方、スーパードリグや下位リーグに地方を根拠地とする多数のクラブが存在していることも事実である。その背景には、クラブの地元の市がクラブに公有地を提供する（店舗や駐車場の経営のため）ことで間接的に財政支援し、その見返りに市長が、かつてはクラブ会長、それが禁止された現在はクラブ名誉会長に就任し、地元有権者に顔を売り、選挙で集票するという構図がある（参考文献④）。

トルコ国会議員にも国民的英雄視されたサッカー選手がいる。イスタンブールの名門ガラタサライのセリエAでもプレーしたことのあるハーカン・シュキュリュである。トルコA代表歴も長く、二〇〇二年日韓共催ワールドカップでトルコが三位になったときの代表キャプテンでもあった。彼はトルコ最大のイスラム運動フェトウッラーの信徒でもある。二〇一一年の総選挙で公正発展党(AKP)は彼を主要な看板候補の一人に選び、難なく国会議員に当選させた。しかし、フェトウッラー派とAKPの仲違いが二〇一三年末に表面化すると彼はAKP政権を批判して離党した。その点で、彼の政治的軌跡は、フェトウッラー派とAKP間の連合から対立への変遷を体現している。

●イスタンブールでの抗議運動に顔をみせたサッカー関係者

二〇一三年五月末に勃発したイスタンブールでのゲジ公園再開発抗議運動に対しエルドアン首相が自党支持者を「対抗動員」していた六月中旬、一二月一七日の汚職捜査の対象となったエゲメン・バウ

シュ外相は対抗動員の場にいたシュキュリュを呼んで耳打ちした。そして「国家情報局によると、検察が政府の要人に対する汚職捜査を予定しているようだが、もしそうだとすると、(検察や警察を握るトルコ最大のイスラム運動である)ギュレン派と政権との間に(望ましくない)対立が生じることになる。このことをギュレン師に伝える必要がある」と述べ、暗にギュレン派を警告した(参考文献⑤)。シュキュリュは信徒の一人ではあるもののギュレン派の政治的な動きを把握していなかったため、このときバウシュが望んだような伝達者の役割を果たさなかったが、一二月一七日以降の汚職捜査をめぐりAKP政権がギュレン派を糾弾すると、AKPから離党して無所属国会議員に転じた。その後AKP政権が検察や検察への反撃に出て大幅人事異動により汚職捜査を事実上封じ込めると、シュキュリュに続く離党者はほとんど出なかった。

ところでゲジ抗議運動のときに注目を集めたのが、ベシクタシュのサポーター集団であるチャルシュ・グループである。チャルシュとは市場(いちば)、バザー

ルという意味で、イスタンブールの中産階級地区であるベシクタシュのバザールをいわば「コミュニティ」としていることに由来する。他のサポーター・グループがどちらかというトルコ民族主義的なものに対し、チャルシュは、いわゆる「体制」に反対する点(および左派的な傾向)で特徴がある(参考文献⑥)。ベシクタシュがトルコの三大クラブのひとつではあるが他の二つの後塵を拝していることから、アンチ巨人・阪神ファン的な心理があるのかもしれない。ゲジ抗議運動では警察による弾圧に抵抗し、チャルシュのメンバーが路上に放置されていた建設用ショベルカーに乗って警察の装甲車を追い払った光景は人々の脳裏に焼き付いているのではない。ただしその後、政府はチャルシュを取り締まり、多くのメンバーが逮捕拘束された。チャルシュはその反骨精神を体を張って証明したといえる。

(はざま やすし/アジア経済研究所 中東研究グループ)

《参考文献およびウェブサイト》

- ① <http://www.aksyon.com.tr/kitaplik/basbakan-erdoganin-futbol-kariyeri-kitap-oldu-513853>
- ② <http://www.hurriyet.com.tr/spor/futbol/26890186.asp>
- ③ http://en.wikipedia.org/wiki/S%C3%BCper_Lig
- ④ Özgür Karataş, "Türkiye'de Futbol ve Siyaset İlişkisi," *İnönü Üniversitesi, Beden Eğitimi ve Spor Bilimleri Dergisi*, 2014, 1 (2), 39-47, accessed April 4, 2015.
- ⑤ http://www.cumhuriyet.com.tr/haber/turkiye/157339/Hoca_ya_ulasmak_lazim_Hakancigim.html
- ⑥ [http://en.wikipedia.org/wiki/%C3%87ar%C5%9F%C4%B1_\(supporter_group\)](http://en.wikipedia.org/wiki/%C3%87ar%C5%9F%C4%B1_(supporter_group))